

専門基礎分野

| | | | | | | | |
|------|---|-----|-----|-----|-------|---------|---|
| 科目名 | 解剖学 | | | 担当者 | 小池 正美 | | |
| 履修学年 | 1年次 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 15時間 | 実務経験の有無 | 有 |
| 科目目的 | 人体の構造と機能について基本的な理解をする。 | | | | | | |
| 到達目標 | <p>1. 看護の実践に活用するための人体と構造の機能についての基本的知識を身につける。</p> <p>(1) 人体の構造と機能のつながり、解剖学的用語を述べることができる。</p> <p>(2) 細胞・組織・器官・器官系・遺伝子・染色体について述べるができる。</p> <p>(3) 内部環境の恒常性と調整、生体のリズム、体熱産生と体温を述べるができる。</p> <p>(4) 神経細胞と組織、中枢神経系、末梢神経系について述べるができる。</p> <p>(5) 骨格系、筋系、感覚器系について述べるができる。</p> <p>(6) 循環器系（心臓の構造と機能）、血管系、リンパ系について述べるができる。</p> <p>(7) 血液の成分と機能、止血機構、血液型について述べるができる。</p> <p>(8) 皮膚の構造と機能、体内の膜、生体の防御機構について述べるができる。</p> <p>(9) 呼吸器系の構造と機能、呼吸のプロセス、呼吸の調節について述べるができる。</p> <p>(10) 消化器系の構造と機能を述べるができる。</p> <p>(11) 泌尿器系の構造と機能を述べるができる。</p> <p>(12) ホルモンの作用とそれによる調整について述べるができる。</p> <p>2. 自らDVDを何度も視聴し、学習する態度をとることができる。</p> <p>3. 体の白地図を完成することができる。</p> | | | | | | |

授業計画

| 回 | 時間 | 授業内容 | 授業方法 |
|---|----|----------------------------|------|
| 1 | 2 | 人体の構造、各器官系の臓器と主な役割 | 講義 |
| 2 | 2 | 人体の構造、各器官系の臓器と主な役割 運動器系 | 講義 |
| 3 | 2 | 人体の構造、各器官系の臓器と主な役割 神経系・感覚器 | 講義 |
| 4 | 2 | 人体の構造、各器官系の臓器と主な役割 循環器系 | 講義 |
| 5 | 2 | 人体の構造、各器官系の臓器と主な役割 呼吸器系 | 講義 |
| 6 | 2 | 人体の構造、各器官系の臓器と主な役割 消化器系 | 講義 |
| 7 | 2 | 人体の構造、各器官系の臓器と主な役割 泌尿器系 | 講義 |
| 8 | 2 | 人体の構造、各器官系の臓器と主な役割 内分泌系 | 講義 |

| | |
|----------|----------------------------|
| 教科書・参考図書 | 「解剖生理学」医学書院 |
| 成績評価方法 | 終了時試験 |
| 履修上の注意点 | 復習を行うなど学習習慣を身に着け、取り組みましょう。 |

専門基礎分野

| | | | | | | | |
|------|---|-----|-----|-----|-------|---------|---|
| 科目名 | 生理学 | | | 担当者 | 菅野 明美 | | |
| 履修学年 | 1年次 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 | 実務経験の有無 | 有 |
| 科目目的 | 人体の構造と機能について基本的な理解をする。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1. 解剖生理学総論にて学習した各項目内容を自分の言葉で説明することができる。 2. 人体の構造と機能が日常生活行動とつながることを考える機会とする。 3. 人体の構造と機能を理解するための学習の場に積極的に参加することができる。 | | | | | | |

授業計画

| 回 | 時間 | 授業内容 | 授業方法 |
|------|----|-------------------------|-------|
| 1 | 2 | 生理学とは；細胞から個体へ,細胞内小器官 | 講義・演習 |
| 2 | 2 | 運動器；骨と筋 | 講義・演習 |
| 3 | 2 | 消化器；口から肛門まで,吸収とは | 講義・演習 |
| 4 | 2 | 呼吸器；外呼吸と内呼吸 | 講義・演習 |
| 5 | 2 | 循環器；体循環と肺循環、胎児循環 | 講義・演習 |
| 6 | 2 | 血液；成分と機能／内分泌；内分泌器官とホルモン | 講義・演習 |
| 7 | 2 | 感覚器；五感の基礎、神経系；中枢と末梢 | 講義・演習 |
| 8~15 | 16 | 解剖生理学 講習会 2日間 | 講義 |

| | |
|----------|---|
| 教科書・参考図書 | 「解剖生理学」医学書院 講習時使用テキスト 配布資料 |
| 成績評価方法 | 試験、課題、講義・講習会への積極的参加 |
| 履修上の注意点 | 生理学での身体機能の理解は、今後の看護学の履修、実践の上で最も基礎なるものの一つです。テキストを事前学習すると共に、課題（復習問題）を自ら解答して事後学習をすすめていきましょう。 |

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
菅野明美：18年間病院にて看護師として勤務。

専門基礎分野

| | | | | | | | |
|------|--|-----|-----|-----|--|---------|---|
| 科目名 | 臓器別解剖学 | | | 担当者 | 菅野 明美・坪井 宥璃・宋永仁・堤雅一・所森子・藤田恒夫・嶋崎直哉・板垣秀夫・飯塚桂司・北見修一・長山隆志・堀田総一・高島佑典・山本祐介・松崎寛二 加藤貴史 | | |
| 履修学年 | 1年次 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 | 実務経験の有無 | 有 |
| 科目目的 | 疾病の成り立ちを知る前提である人体の構造と機能について系統別に理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <p>1. 人体と構造の機能を疾病の成り立ちにつなげられるようにする。</p> <p>(1) 病態生理学Ⅰとともに学習(6時間)</p> <p>①循環器系の構造と機能を説明することができる。</p> <p>②呼吸器系の構造と機能を説明することができる。</p> <p>③消化器系の構造と機能を説明することができる。</p> <p>(2) 病態生理学Ⅱとともに学習(8時間)</p> <p>④神経系の機能を説明することができる。</p> <p>⑤骨格器系・筋系の機能を説明することができる。</p> <p>⑥感覚器系の説明をすることができる。</p> <p>⑦内分泌系の説明をすることができる。</p> <p>(3) 病態生理学Ⅲとともに学習(8時間)</p> <p>⑧血液・造血管系の説明をすることができる。</p> <p>⑨免疫機能の説明をすることができる。</p> <p>⑩排泄機能の説明をすることができる。</p> <p>⑪生殖機能の説明をすることができる。</p> <p>(4) 細胞と組織、生体リズムと内部環境の恒常性、体液、代謝系(8時間)</p> <p>2. 疾病の学びにつながるように、事前学習をして学習の場に臨むことができる。</p> | | | | | | |

授業計画

| 回 | 時間 | 授業内容 | 授業方法 |
|----|----|----------------|------|
| 1 | 2 | 循環器の構造と機能 | 講義 |
| 2 | 2 | 呼吸器の構造と機能 | 講義 |
| 3 | 2 | 消化器の構造と機能 | 講義 |
| 4 | 2 | 神経系の機能 | 講義 |
| 5 | 2 | 骨格器系・筋系の機能 | 講義 |
| 6 | 2 | 感覚器系 | 講義 |
| 7 | 2 | 内分泌系 | 講義 |
| 8 | 2 | 血液造血管系 | 講義 |
| 9 | 2 | 免疫機能 | 講義 |
| 10 | 2 | 排泄機能 | 講義 |
| 12 | 2 | 細胞と組織 | 講義 |
| 13 | 2 | 生体リズムと内部環境の恒常性 | 講義 |
| 14 | 2 | 体液・代謝系 | 講義 |
| 15 | 2 | まとめ | 講義 |

| | |
|----------|---|
| 教科書・参考図書 | 「系統看護学講座 解剖生理学」「系統看護学講座 各成人看護学疾患看護」医学書院 |
| 成績評価方法 | 講義への積極的参加・毎回のレポート80% まとめのレポート20% |
| 履修上の注意 | 病態生理学Ⅰ～Ⅲの前に系統別の講義あり |

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
菅野明美：18年間病院にて看護師として勤務。

専門基礎分野

| | | | | | | | |
|------|---|-----|-----|-----|-------|---------|---|
| 科目名 | 形態機能学Ⅰ | | | 担当者 | 日高 千枝 | | |
| 履修学年 | 1年次 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 | 実務経験の有無 | 有 |
| 科目目的 | 形態機能学Ⅰ フィジカルアセスメントと日常生活の営みを支える看護に必要な人体の構造と機能の基本を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <p>1. 看護の実践に活用・特に日常生活行動を支えるための知識を身につける。 そのために、人の日常生活と関連付けて説明することができるようになる。</p> <p>(1) 生活行動、生きるということについて、内部環境の恒常性から説明することができる。</p> <p>(2) 恒常性維持のための物質の流通を媒体としての血液を説明することができる。</p> <p>(3) 恒常性維持のための調節機構(神経調節・液性調節)について説明することができる。</p> <p>(4) ストレスについて説明することができる。</p> <p>(5) 外部環境とからだについて説明することができる。</p> <p>(6) 子どもを生むことについて説明することができる。</p> <p>2. 自分の考えを整理し、わかりやすく伝えることができる。</p> | | | | | | |

授業計画

| 回 | 時間 | 授業内容 | 授業方法 |
|----|----|--------------------------|-------|
| 1 | 2 | 日常生活によって生命が維持される GW | 講義・演習 |
| 2 | 2 | 内部環境の恒常性～体液 | 講義 |
| 3 | 2 | 内部環境の恒常性～血漿 | 講義 |
| 4 | 2 | 内部環境の恒常性～酸素分圧・体温 | 講義 |
| 5 | 2 | 恒常性維持のための物質の流通～血液 GW | 講義・演習 |
| 6 | 2 | 恒常性維持のための物質の流通～心臓 | 講義 |
| 7 | 2 | 恒常性維持のための調節機構～中枢神経 | 講義 |
| 8 | 2 | 恒常性維持のための調節機構～末梢神経 | 講義 |
| 9 | 2 | 恒常性維持のための調節機構～ホルモン | 講義 |
| 10 | 2 | ストレスと恒常性維持 GW | 講義・演習 |
| 11 | 2 | ストレスと恒常性維持 GW発表 | 演習 |
| 12 | 2 | 子どもを生む～遺伝子・ホルモン | 講義 |
| 13 | 2 | 外部環境とからだ～人類誕生時の環境と今 GW | 演習 |
| 14 | 2 | 外部環境とからだ～人類誕生時の環境と今 GW発表 | 演習 |
| 15 | 2 | 外部環境とからだ～人類誕生時の環境と今 GW発表 | 演習 |

| | |
|----------|---------------------------------------|
| 教科書・参考図書 | 「看護形態機能学 生活行動からみるからだ」 菱沼 典子 日本看護協会出版会 |
| 成績評価方法 | 試験100%、講義への積極的参加を含む。 |
| 履修上の注意点 | 自分の経験、日常生活行動を解剖生理学の視点で考える習慣をつける。 |

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。

日高 千枝：6年間病院にて看護師として勤務。

専門基礎分野

| | | | | | | | |
|------|--|-----|-----|-----|-------|---------|---|
| 科目名 | 形態機能学Ⅱ | | | 担当者 | 酒井 知美 | | |
| 履修学年 | 1年次 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 | 実務経験の有無 | 有 |
| 科目目的 | 形態機能学Ⅱ フィジカルアセスメントと日常生活の営みを支える看護に必要な人体の構造と機能の基本を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <p>1. 看護の実践に活用・特に日常生活行動を支えるための知識を身につける。 そのために、人の日常生活と関連付けて説明することができるようになる。</p> <p>(1) 日常生活行動の「動く」にかかわる身体の構造と機能について説明することができる。</p> <p>(2) 日常生活行動の「食べる」にかかわる身体の構造と機能について説明することができる。</p> <p>(3) 日常生活行動の「息をする」にかかわる身体の構造と機能について説明することができる。</p> <p>(4) 日常生活行動の「トイレに行く」にかかわる身体の構造と機能について説明することができる。</p> <p>(5) 日常生活行動の「話す・聞く」にかかわる身体の構造と機能について説明することができる。</p> <p>(6) 日常生活行動の「眠る」にかかわる身体の構造と機能について説明することができる。</p> <p>(7) 日常生活行動の「お風呂に入る」にかかわる身体の構造と機能について説明することができる。</p> <p>2. 看護実践に活用できるからだの知識を自分のものとして述べることができる。</p> <p>3. 疑問が解決できるように、積極的に学習の場に参加することができる。</p> | | | | | | |

授業計画

| 回 | 時間 | 授業内容 | 授業方法 |
|----|----|---------------------|-------|
| 1 | 2 | 「動く」～姿勢・筋の収縮・弛緩 | 講義 |
| 2 | 2 | 「動く」～反射・随意運動 | 講義 |
| 3 | 2 | 「動く」～骨・骨格筋・関節 | 講義 |
| 4 | 2 | 「動く」～日常生活での動き | 講義 |
| 5 | 2 | 「食べる」～食欲・食行動 | 講義 |
| 6 | 2 | 「食べる」～消化・吸収 | 講義 |
| 7 | 2 | 「食べる」～消化・吸収 | 講義 |
| 8 | 2 | 「食べる」～食べたものの行方 GW | 講義・演習 |
| 9 | 2 | 「食べる」～食べたものの行方 GW発表 | 演習 |
| 10 | 2 | 「息をする」～呼吸・ガス交換 | 講義 |
| 11 | 2 | 「トイレに行く」～排尿・排便 | 講義 |
| 12 | 2 | 「話す・聞く」～発声・聴覚・言葉 | 講義 |
| 13 | 2 | 「眠る」～睡眠のメカニズム | 講義 |
| 14 | 2 | 「お風呂に入る」～皮膚・粘膜 | 講義 |
| 15 | 2 | まとめ:生活行動からみるからだ | 講義・演習 |

| | |
|----------|--------------------------------------|
| 教科書・参考図書 | 「看護形態機能学 生活行動からみるからだ」菱沼 典子 日本看護協会出版会 |
| 成績評価方法 | 試験80%、演習評価20%、講義への積極的参加含む |
| 履修上の注意点 | からだの知識を看護の実践に活用できるようにする。 |

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。

酒井知美：14年間病院にて看護師として勤務。

専門基礎分野

| | | | | | | | |
|------|--|-----|-----|-----|-------|---------|---|
| 科目名 | 生化学 | | | 担当者 | 青山 芳文 | | |
| 履修学年 | 1年次 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 15時間 | 実務経験の有無 | 有 |
| 科目目的 | 人体の構成成分である化学的物質の性状、その代謝について理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体構成成分の基本的な構造（元素・分子・細胞）を説明することができる。 2. 生体構成成分（3大栄養素）の代謝を説明することができる。 3. 遺伝子と核酸・核酸代謝を説明することができる。 4. ヒトの遺伝情報の流れ（遺伝子の複製と修復・組換え、転写、翻訳と翻訳後修復）について述べるすることができる。 5. 内分泌の生化学的基盤であるホメオスタシス、ホルモンについて説明することができる。 | | | | | | |

授業計画

| 回 | 時間 | 授業内容 | 授業方法 |
|---|----|-------------------------------|------|
| 1 | 2 | 生化学を学ぶ、代謝の基礎 | 講義 |
| 2 | 2 | 糖質の構造と機能、糖質代謝 | 講義 |
| 3 | 2 | 脂質の構造と機能、脂質の代謝、蛋白質の構造と機能 | 講義 |
| 4 | 2 | 蛋白質の代謝、ポルフィリン代謝と遺物代謝、遺伝子情報と核酸 | 講義 |
| 5 | 2 | 遺伝子の複製と修復・組換え、転写 | 講義 |
| 6 | 2 | 翻訳と翻訳後修飾、シグナル伝達 | 講義 |
| 7 | 2 | 細胞のシグナル伝達 | 講義 |
| 8 | 2 | がん | 講義 |

| | |
|----------|---------------------------------------|
| 教科書・参考図書 | 「系統看護学講座 生化学」医学書院 |
| 成績評価方法 | 試験100%にて評価する。 |
| 履修上の注意点 | 解剖学、生物学、微生物学の学習内容とともに知識を身につけられるようにする。 |

専門基礎分野

| | | | | | | | |
|------|---|-----|-----|-----|-------|---------|---|
| 科目名 | 微生物学 | | | 担当者 | 鈴木 貴弘 | | |
| 履修学年 | 1年次 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 15時間 | 実務経験の有無 | 有 |
| 科目目的 | 微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解し、患者の安全や感染予防の重要性を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の成り立ちを説明することができる。 2. 微生物の種類と性質について説明することができる。 3. 病原微生物の感染のしくみとヒトの生体防御機構について説明することができる。 4. 化学療法の意味・役割を知り、主な化学療法薬について説明することができる。 5. 主な病原微生物について述べるすることができる。 | | | | | | |

授業計画

| 回 | 時間 | 授業内容 | 授業方法 |
|---|----|---------|------|
| 1 | 2 | 微生物学の基礎 | 講義 |
| 2 | 2 | 微生物学の基礎 | 講義 |
| 3 | 2 | 感染とその防御 | 講義 |
| 4 | 2 | 感染とその防御 | 講義 |
| 5 | 2 | 感染症 | 講義 |
| 6 | 2 | 感染症 | 講義 |
| 7 | 2 | 病原微生物 | 講義 |
| 8 | 2 | 病原微生物 | 講義 |

| | |
|----------|--------------------------------------|
| 教科書・参考図書 | 系統看護学講座「微生物学」医学書院 |
| 成績評価方法 | 試験100%にて評価する。 |
| 履修上の注意点 | 解剖学、生化学、生物学の学習内容とともに知識を身につけられるようにする。 |

専門基礎分野

| | | | | | | | |
|------|--|-----|-----|-----|------|---------|---|
| 科目名 | 病理学 | | | 担当者 | 末永 仁 | | |
| 履修学年 | 1年次 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 15時間 | 実務経験の有無 | 有 |
| 科目目的 | 疾病の病因と病変の特徴を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1. 看護と病理学について述べることができる。 2. 病気がなぜ、どのようにして起こるか、身体にどのような異常を引き起こすかを理解し、説明することができる。 3. 病気に関わる専門用語の定義を理解し、述べるすることができる。 | | | | | | |

授業計画

| 回 | 時間 | 授業内容 | 授業方法 |
|-----|------|---|------|
| 1～8 | 2×8回 | 病因、細胞・組織の障害と修復、循環障害、炎症と免疫、移植と再生医療、感染症、代謝障害、老化と死、先天異常と遺伝子異常、腫瘍 | 講義 |

| | |
|----------|--------------------------------------|
| 教科書・参考図書 | 「系統看護学講座 病理学」医学書院 |
| 成績評価方法 | 試験100%にて評価する。 |
| 履修上の注意点 | 解剖学、生化学、生物学の学習内容とともに知識を身につけられるようにする。 |

専門基礎分野

| | | | | | | | |
|------|--|-----|-----|-----|------------|---------|---|
| 科目名 | 治療論 | | | 担当者 | 加藤 貴史・森田淳一 | | |
| 履修学年 | 1年次 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 15時間 | 実務経験の有無 | 有 |
| 科目目的 | 医学的な治療とは何か、診断はどのような過程を経て行われるかについて理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <p>1. 看護活動の実践のために必要な治療方法の基礎的知識を身につけることができる。</p> <p>(1) 治療の種類とそれぞれの特徴を説明することができる。</p> <p>(2) 診断における検査の種類と役割について説明することができる。</p> <p>2. 診断から治療が行われている過程での看護の果たす役割を考えることができる。</p> | | | | | | |

授業計画

| 回 | 時間 | 授業内容 | 授業方法 |
|---|----|---------------------|------|
| 1 | 2 | 食事療法・特殊栄養法 | 講義 |
| 2 | 2 | リハビリテーション・放射線治療 | 講義 |
| 3 | 2 | 低侵襲治療法 | 講義 |
| 4 | 2 | チーム医療・外科的診断法 | 講義 |
| 5 | 2 | 外科療法（手術療法） | 講義 |
| 6 | 2 | 外科療法（手術療法）麻酔の知識 | 講義 |
| 7 | 2 | 外科療法（手術療法）炎症と外科的感染症 | 講義 |
| 8 | 2 | 薬物療法 | 講義 |

| | |
|----------|------------------------------|
| 教科書・参考図書 | 「新体系看護学全書 別巻 治療法概説」メヂカルフレンド社 |
| 成績評価方法 | 試験100%にて評価する。 |
| 履修上の注意点 | 今後の病態生理の学習につなげる。 |

専門基礎分野

| | | | | | | | |
|------|--|-----|-----|-----|-------------|---------|---|
| 科目名 | 栄養学 | | | 担当者 | 鈴木 薫子・石川 祐一 | | |
| 履修学年 | 1年次 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 | 実務経験の有無 | 有 |
| 科目目的 | 生体が正常に機能するために必要な栄養に関する基本的知識を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1. 人間に目を向けた栄養学の必要性を説明することができる。 2. 人間に対する栄養の基礎知識を説明することができる。 3. 栄養状態の評価・判定についての知識・方法を活用することができるようになる。 4. ライフステージならびに疾病ごとの栄養的な特徴を理解することができる。 5. 栄養と食事について看護実践につなげられるように、またチーム医療における栄養ケア・マネジメントへの関心を高めることができるようにする。 | | | | | | |

授業計画

| 回 | 時間 | 授業内容 | 授業方法 |
|------|------|---|------|
| 1～8 | 2×8回 | 栄養学について 人間栄養学と看護(栄養素の種類とはたらき) 食物の消化と栄養素の吸収・代謝 エネルギー代謝 栄養ケア・マネジメント(栄養評価) | 講義 |
| 9～15 | 2×7回 | 演習:SGA 演習:ODA 食事療法—循環器疾患、消化器疾患、腎臓病、代謝性疾患 血液疾患、周手術期の栄養管理 | 講義 |

| | |
|----------|----------------------------------|
| 教科書・参考図書 | 「系統看護学講座 栄養学」医学書院 |
| 成績評価方法 | 試験100%にて評価する。 |
| 履修上の注意点 | 解剖学、生化学の学習内容とともに知識を身につけられるようにする。 |

専門基礎分野

| | | | | | | | |
|------|--|-----|-----|-----|-------|---------|---|
| 科目名 | 薬理学 | | | 担当者 | 青山 芳文 | | |
| 履修学年 | 2年次 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 | 実務経験の有無 | 有 |
| 科目目的 | 薬物の薬理作用および人体への影響と薬物の管理について理解することにより、臨床で有害な作用を早期に発見し、対応できるようになる。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物の薬理作用及び、人体への影響と薬物の管理について説明することができる。 2. 薬物の使用目的、作用と副作用(有害事象)、禁忌について説明することができる。 3. 投与時の看護のポイントを述べることができる。 | | | | | | |

授業計画

| 回 | 時間 | 授業内容 | 授業方法 |
|----|----|--------------------------|------|
| 1 | 2 | 薬理学を学ぶにあたって | 講義 |
| 2 | 2 | 薬理学の基礎知識(1) | 講義 |
| 3 | 2 | 薬理学の基礎知識(2) | 講義 |
| 4 | 2 | 抗菌薬について 教科書第3章 | 講義 |
| 5 | 2 | 抗がん薬 教科書第4章 | 講義 |
| 6 | 2 | 免疫、抗アレルギー薬・抗炎症薬 教科書第5・6章 | 講義 |
| 7 | 2 | 末梢神経 教科書第7章 | 講義 |
| 8 | 2 | 中枢神経 教科書第8章 | 講義 |
| 9 | 2 | 循環器、血液 教科書第9章 | 講義 |
| 10 | 2 | 呼吸器、消化器、生殖器系 教科書第10章 | 講義 |
| 11 | 2 | 物質代謝に作用する薬物 教科書第11章 | 講義 |
| 12 | 2 | 皮膚・眼科用剤、救急用剤 教科書第12, 13章 | 講義 |
| 13 | 2 | 漢方薬、消毒薬 教科書第14, 15章 | 講義 |
| 14 | 2 | 振り返り 国試対策(1) | 講義 |
| 15 | 2 | 振り返り 国試対策(2) | 講義 |

| | |
|----------|----------------------------------|
| 教科書・参考図書 | 「系統看護学講座 薬理学」医学書院 |
| 成績評価方法 | 講義への積極的参加・毎回のレポート80% まとめのレポート20% |
| 履修上の注意点 | 課題がありますので、予習・復習をしっかりと行いましょう。 |

専門基礎分野

| | | | | | | | |
|------|--|-----|-----|-----|-----------------------------------|---------|--|
| 科目名 | 病態生理学Ⅰ | | | 担当者 | 高島佑典・山本祐介・松崎寛二・今井章人・三富樹郷・加藤貴史・近藤匡 | | |
| 履修学年 | 1年次 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 | 実務経験の有無 | |
| 科目目的 | 疾患の病態と診断・治療について基本的な理解をする。 (循環器機能・呼吸器機能・消化器機能) | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器の病態と診断・治療について説明することができる。 2. 呼吸器の病態と診断・治療について説明することができる。 3. 消化器の病態と診断・治療について説明することができる。 | | | | | | |

授業計画

| 回 | 時間 | 授業内容 | 授業方法 |
|-------|----|------------------------------|----------------------|
| 1～6 | 12 | 循環器の病態と診断・治療 4時間 他+臓器別解剖学2時間 | 高島佑典 |
| | | 循環器の病態と診断・治療 8時間(解剖含む) | 松崎寛二 今井章人 三富樹郷 |
| 7～10 | 8 | 呼吸器の病態と診断・治療 8時間 他+臓器別解剖学2時間 | 山本祐介 |
| 11～15 | 10 | 消化器の病態と診断・治療 2時間 他+臓器別解剖学2時間 | 嶋崎陽一 |
| | | 消化器の病態と診断・治療 8時間(解剖含む) | 加藤貴史・近藤匡 |

| | |
|----------|---------------------------|
| 教科書・参考図書 | 「系統看護学講座 循環器・呼吸器・消化器」医学書院 |
| 成績評価方法 | 試験100%にて評価する。 |
| 履修上の注意点 | 臓器別解剖学とともに学習していく。 |

専門基礎分野

| | | | | | | | |
|------|--|-----|-----|-----|---|---------|---|
| 科目名 | 病態生理学Ⅱ | | | 担当者 | 藤田恒夫・嶋崎直哉・立木繁・岩堀智之・板垣秀夫・飯塚桂司・北見修一・長山隆志・堀田総一 | | |
| 履修学年 | 1年次 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 | 実務経験の有無 | 有 |
| 科目目的 | 疾患の病態と診断・治療について基本的な理解をする。 (神経機能・運動機能・感覚器系・内部環境調整機能) | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 神経機能の病態と診断・治療について説明することができる。 2. 運動器の病態と診断・治療について説明することができる。 3. 感覚器の病態と診断・治療について説明することができる。 4. 内部環境調整機能の病態と診断・治療について説明することができる。 | | | | | | |

授業計画

| 回 | 時間 | 授業内容 | 授業方法 |
|-------|----|--------------------------------------|--|
| 1～4 | 8 | 神経機能の病態と診断・治療 8時間 他+臓器別解剖学2時間 | 藤田恒夫 |
| 5～7 | 6 | 運動器の病態と診断・治療 6時間 他+臓器別解剖学2時間 | 嶋崎直哉・立木繁・岩堀智之 |
| 8～12 | 10 | 感覚器の病態と診断・治療 10時間 他+臓器別解剖学2時間 | 板垣秀夫(眼科) 飯塚桂司(耳鼻科) 北見修一(歯科) 長山隆志(皮膚科) |
| 13～15 | 6 | 内部環境調整機能の病態と診断・治療 6時間 他+臓器別解剖学2時間 | 堀田総一 |

| | |
|----------|--|
| 教科書・参考図書 | 「系統看護学講座 脳・神経、運動器、内分泌・代謝」医学書院 「看護学テキストNice病態・治療論11南山堂 皮膚/耳鼻咽喉/歯・口腔疾患」 参考：「系統看護学講座 病理学」医学書院 |
| 成績評価方法 | 試験100%にて評価する。 |
| 履修上の注意点 | 臓器別解剖学とともに学習していく。 |

専門基礎分野

| | | | | | | | |
|------|--|-----|-----|-----|----------------------------|---------|--|
| 科目名 | 病態生理学Ⅲ | | | 担当者 | 坪井宥璃・末永仁・堤雅一・遠藤剛・石塚竜太郎・所恭子 | | |
| 履修学年 | 1年次 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 | 実務経験の有無 | |
| 科目目的 | 疾患の病態と診断・治療について基本的な理解をする。 (造血機能・免疫機能・排泄機能・生殖機能) | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 血液・造血器の病態と診断・治療について説明することができる。 2. 免疫機能の病態と診断・治療について説明することができる。 3. 排泄機能の病態と診断・治療について説明することができる。 4. 生殖機能の病態と診断・治療について説明することができる。 | | | | | | |

授業計画

| 回 | 時間 | 授業内容 | 授業方法 |
|-------|----|-----------------------------------|---------------------------|
| 1～4 | 8 | 血液・造血器の病態と診断・治療8時間 他+臓器別解剖学2時間 | 坪井 宥璃 |
| 5～8 | 8 | 免疫機能の病態と診断・治療8時間 他+臓器別解剖学2時間 | 末永仁 |
| 9～12 | 8 | 排泄機能の病態と診断・治療8時間 他+臓器別解剖学2時間 | 末永仁・ 堤雅一・遠藤剛・ 石塚竜太郎 |
| 13～15 | 6 | 生殖機能の病態と診断・治療6時間 他+臓器別解剖学2時間 | 所恭子 |

| | |
|----------|--|
| 教科書・参考図書 | 「系統看護学講座 血液・造血器、アレルギー・膠原病・感染症、腎・泌尿器、女性生殖器」医学書院 |
| 成績評価方法 | 試験100%にて評価する。 |
| 履修上の注意点 | 臓器別解剖学とともに学習していく。 |

専門基礎分野

| | | | | | | | |
|------|--|-----|-----|-----|----------------|---------|---|
| 科目名 | 病態生理学Ⅳ | | | 担当者 | 田所亜由美・根岸理加・横田和 | | |
| 履修学年 | 2年次 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 | 実務経験の有無 | 有 |
| 科目目的 | 代表的な疾患の病態と症状、治療について基本的な理解をする。 臨床判断につながる学習とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1. 代表的な疾患の病態と症状、治療について説明することができる。 2. 疑問が解決できるように、積極的に学習の場に参加することができる。 | | | | | | |

授業計画

| 回 | 時間 | 授業内容 | 授業方法 |
|------|----|---------------------------------|-------|
| 1 | 2 | 病態の学習：呼吸不全 | 講義・演習 |
| 2 | 2 | 病態の学習：心不全 | 講義・演習 |
| 3 | 2 | 病態の学習：肝不全 | 講義・演習 |
| 4 | 2 | 病態の学習：脳血管障害 | 講義・演習 |
| 5 | 2 | 病態の学習：腎不全 | 講義・演習 |
| 6 | 2 | 病態の学習：白血病 | 講義・演習 |
| 7 | 2 | 病態の学習：糖尿病 | 講義・演習 |
| 8~15 | 16 | 病態について 事例をもとに臨床判断ができるようにすすめる | 演習 |

| | |
|----------|---|
| 教科書・参考図書 | 「系統看護学講座 解剖生理学」「系統看護学講座 各成人看護学疾患看護」医学書院 |
| 成績評価方法 | 試験80%、演習評価20%、講義への積極的参加含む |
| 履修上の注意点 | 臨床判断ができるように病態を理解していく。 |

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。

田所亜由美：13年間病院にて看護師として勤務。

横田和：5年間病院にて看護師として勤務。

根岸理加：5年間病院にて看護師として勤務。

専門基礎分野

| | | | | | | | |
|------|------------------------------|-----|-----|-----|-----------|---------|---|
| 科目名 | 小児病態学 | | | 担当者 | 菊地正弘・菅野明美 | | |
| 履修学年 | 2年次 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 15時間 | 実務経験の有無 | 有 |
| 科目目的 | 小児疾患の病態の診断・治療について基本的な理解をする。 | | | | | | |
| 到達目標 | 小児疾患の病態の診断・治療について説明することができる。 | | | | | | |

授業計画

| 回 | 時間 | 授業内容 | 授業方法 |
|-----|----|---------|------|
| 1～8 | 15 | 小児特有の疾患 | 講義 |

| | |
|----------|--|
| 教科書・参考図書 | 「系統看護学講座 小児臨床看護各論」医学書院 |
| 成績評価方法 | 試験100%にて評価する。 |
| 履修上の注意点 | 1年次の病態生理学・小児の発達の学習内容とともに知識を身につけられるようにする。 |

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
菅野明美：18年間病院にて看護師として勤務。

専門基礎分野

| | | | | | | | |
|------|---|-----|-----|-----|-------------------|---------|---|
| 科目名 | 精神病態学 | | | 担当者 | 清水英之・大和田藍・堀口爽・間宮祥 | | |
| 履修学年 | 2年次 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 15時間 | 実務経験の有無 | 有 |
| 科目目的 | 精神疾患について理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1. 精神医学の概念について述べるができる。 2. 精神障害の病態・診断および治療について説明することができる。 | | | | | | |

授業計画

| 回 | 時間 | 授業内容 | 授業方法 |
|---|----|---------------------------|------|
| 1 | 2 | 総論 意識障害 | 講義 |
| 2 | 2 | 神経発達障害 | 講義 |
| 3 | 2 | 睡眠、物質関連、てんかん | 講義 |
| 4 | 2 | 認知症 | 講義 |
| 5 | 2 | 統合失調症 | 講義 |
| 6 | 2 | 気分障害 | 講義 |
| 7 | 2 | 不安、ストレス障害 | 講義 |
| 8 | 2 | 解離、摂食障害、身体表現性障害 パーソナルティ障害 | 講義 |

| | |
|----------|---------------------------------------|
| 教科書・参考図書 | 「新体系看護学全書精神看護学2 精神障害をもつ人の看護」メヂカルフレンド社 |
| 成績評価方法 | 試験100%にて評価する。 |
| 履修上の注意点 | |

専門基礎分野

| | | | | | | | |
|------|--|-----|-----|-----|----------------------|---------|---|
| 科目名 | リハビリテーション概論 | | | 担当者 | 佐々木武人・中森香織・廣瀬仁美・宮本修平 | | |
| 履修学年 | 2年次 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 15時間 | 実務経験の有無 | 有 |
| 科目目的 | リハビリテーションの概念と障害およびチームアプローチを理解し、機能障害や筋力低下に応じた機能訓練について理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療におけるリハビリテーションのあり方を述べることができる。 2. リハビリテーション医療に携わる様々な医療専門職の役割について述べるができる。 3. リハビリテーションにおける評価と障害別リハビリテーションの基本を知ることができる。 4. リハビリテーションにおける看護師の役割、現状、今後の課題について説明することができる。 | | | | | | |

授業計画

| 回 | 時間 | 授業内容 | 授業方法 |
|-----|----|-----------------|------|
| 1・2 | 4 | リハビリテーション概論 | 講義 |
| 3 | 2 | 理学療法—PTより | 講義 |
| 4・5 | 2 | 理学療法 住宅改修・評価 | 講義 |
| 6 | 2 | 作業療法 | 講義 |
| 7 | 2 | 言語聴覚療法 | 講義 |
| 8 | 2 | 嚥下の基礎知識—認定看護師より | 講義 |

| | |
|----------|-------------------------|
| 教科書・参考図書 | 医学書院 系統学講座 運動器 配布資料他 |
| 成績評価方法 | 試験100%にて評価する。 |
| 履修上の注意点 | 配布資料があります。知識を広げていきましょう。 |

専門基礎分野

| | | | | | | | |
|------|--|-----|-----|-----|-------|---------|---|
| 科目名 | 公衆衛生学 | | | 担当者 | 佐野 憲一 | | |
| 履修学年 | 2年次 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 15時間 | 実務経験の有無 | 有 |
| 科目目的 | 公衆衛生の内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方について理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生からみる人間の健康と環境・生命尊重について考えることができるようになる。 2. 動向、施策、法律や制度を説明することができる。 3. 統計の基本的な考え方と疫学の調査方法について述べることができる。 4. 生活者の健康の保持・増進のための活動、行政について述べることができる。 5. 講義で学んだ知識を看護の現場で活かせるようにしていく。 | | | | | | |

授業計画

| 回 | 時間 | 授業内容 | 授業方法 |
|---|----|-------------------|------|
| 1 | 2 | 公衆衛生総論 | 講義 |
| 2 | 2 | 環境と健康 | 講義 |
| 3 | 2 | 人口統計 | 講義 |
| 4 | 2 | 保健統計と疫学法 | 講義 |
| 5 | 2 | 感染症対策、スクリーニングの考え方 | 講義 |
| 6 | 2 | 地域保健関連 | 講義 |
| 7 | 2 | 産業保健 | 講義 |
| 8 | 2 | 水俣病（公害）から学ぶこと | 講義 |

| | |
|----------|---|
| 教科書・参考図書 | 新体系看護学全「公衆衛生学」メヂカルフレンド社 |
| 成績評価方法 | 試験100%にて評価する。 |
| 履修上の注意点 | 様々なデータから捉えられるようにしましょう。課題には積極的に取り組みましょう。 |

専門基礎分野

| | | | | | | | |
|------|---|-----|-----|-----|------|---------|---|
| 科目名 | 社会福祉 | | | 担当者 | 宮本 淳 | | |
| 履修学年 | 2年次 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 | 実務経験の有無 | 有 |
| 科目目的 | 社会保障の理念と基本的な制度の考え方について理解できる。生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題について理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1. 社会保障制度の概念や対象及びその理念を説明することができる。 2. 社会保険制度について説明することができる。 3. 社会福祉の歴史と援助技術について説明することができる。 4. 社会福祉の諸制度と施策、行政のしくみについて説明することができる。 | | | | | | |

授業計画

| 回 | 時間 | 授業内容 | 授業方法 |
|-------|----|-------------------|------|
| 1・2 | 4 | 社会福祉の仕組み | 講義 |
| 3・4 | 4 | 社会福祉の歴史 | 講義 |
| 5・6 | 4 | 社会福祉援助技術① | 講義 |
| 7 | 2 | 社会福祉援助技術② | 講義 |
| 8 | 2 | 社会保障の概要 | 講義 |
| 9 | 2 | 社会保険(医療保険) | 講義 |
| 10 | 2 | 社会保険(年金) | 講義 |
| 11 | 2 | 社会保険(労働保険、介護保険) | 講義 |
| 12 | 2 | 介護保険、生活保護 | 講義 |
| 13 | 2 | 障害者福祉、児童福祉 | 講義 |
| 14・15 | 4 | 高齢者福祉、権利擁護、地域包括ケア | 講義 |

| | |
|----------|-----------------|
| 教科書・参考図書 | 「社会福祉」メヂカルフレンド社 |
| 成績評価方法 | 試験100%にて評価する。 |
| 履修上の注意点 | |

専門基礎分野

| | | | | | | | |
|------|--|-----|-----|-----|-------|---------|---|
| 科目名 | 健康教育論 | | | 担当者 | 根岸 理加 | | |
| 履修学年 | 2年次 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 15時間 | 実務経験の有無 | 有 |
| 科目目的 | 対象の人たちが自己の健康を保持増進するための行動の変容ができるよう、支援者としての必要な健康教育の基本理念・概念を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の健康教育の基本理念・概念・場と対象を説明することができる。 2. 自分自身の日常生活や保健行動を振り返る機会とし述べることができる。 3. 健康教育を看護の実践に活用していくための基盤を身につける。 4. 健康講座に参加し、地域の人々の健康の意識づけを知る機会とする。 5. 自らの健康に関心を持つことができる。 | | | | | | |

授業計画

| 回 | 時間 | 授業内容 | 授業方法 |
|---|----|-------------------------|-------|
| 1 | 2 | 健康教育の基本理念・概念 ヘルスプロモーション | 講義 |
| 2 | 2 | 保健行動の変容に関する理論 | 講義 |
| 3 | 2 | 健康相談の対象・姿勢・実際 | 講義 |
| 4 | 2 | 健康教育の場と対象 | 講義 |
| 5 | 2 | 健康教育とは・学習支援 | 講義 |
| 6 | 2 | 健康教育の実際 自分自身の保健行動の振り返り | 講義 |
| 7 | 2 | 地域における市民健康講座に参加 | 講義・演習 |
| 8 | 2 | 市報等に関心を持つ | 講義 |

| | |
|----------|-------------------------|
| 教科書・参考図書 | 「公衆衛生学」「成人看護学総論」医学書院 |
| 成績評価方法 | 講義への積極的参加・レポート80% 試験20% |
| 履修上の注意点 | |

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
根岸理加：5年間病院にて看護師として勤務。

専門基礎分野

| | | | | | | | |
|------|--|-----|-----|-----|-----------|---------|--|
| 科目名 | 看護と法律 | | | 担当者 | 古澤美智子・横田和 | | |
| 履修学年 | 3年次 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 15時間 | 実務経験の有無 | |
| 科目目的 | 人々健康を守るためのサービス提供機関と従事者の役割・機能に関する基本的な法律について理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 法律とは何かを述べることができる。 2. 看護に関する法律について説明することができる。 3. 看護に関連する各種法律について説明することができる。 4. 法令の内容が看護とどのように関わっているのか考えを述べられるようにする。 | | | | | | |

授業計画

| 回 | 時間 | 授業内容 | 授業方法 |
|---|----|-------------------------|-------|
| 1 | 2 | 法の基礎知識 | 講義 |
| 2 | 2 | 医療法 | 講義 |
| 3 | 2 | 保健師助産師看護師法 | 講義 |
| 4 | 2 | 看護師等の人材確保に関する法律 人に関する法律 | 講義 |
| 5 | 4 | 法に関するグループワーク | 講義・演習 |
| 6 | 2 | 薬事法、臓器移植法 | 講義 |
| 7 | 2 | 健康増進法、介護保険法 | 講義 |
| 8 | 2 | 特別の配慮を必要とする人に関する法律 | 講義 |

| | |
|----------|--------------------|
| 教科書・参考図書 | 「看護をめぐる法と制度」メディカ出版 |
| 成績評価方法 | 試験100%にて評価する。 |
| 履修上の注意点 | 法に対する理解を深める機会とする。 |

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
 古澤美智子：16年間病院にて看護師として勤務。
 横田和：5年間病院にて看護師として勤務。

専門基礎分野

| | | | | | | | |
|------|---|-----|-----|-----|------|---------|--|
| 科目名 | 総合医療論 | | | 担当者 | 末永 仁 | | |
| 履修学年 | 3年次 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 15時間 | 実務経験の有無 | |
| 科目目的 | 看護職が果たすべき役割を理解するために保健・医療・福祉に関する制度やシステム、医療情報システムについての基礎的な知識を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・医療における今日的課題について考えることができるようにする。 2. 現代医療を理解することで、医療・看護について深く考える機会とする。 3. 学習することで幅広い視野を持ち、新時代に求められる看護師像を自分で考える習慣をもてるようにする。 | | | | | | |

授業計画

| 回 | 時間 | 授業内容 | 授業方法 |
|---|----|---------------------|------|
| 1 | 2 | 医療と看護の原点 | 講義 |
| 2 | 2 | 医療の歩みと医療観の変遷 | 講義 |
| 3 | 2 | 私たちの生活と医療 | 講義 |
| 4 | 2 | 科学技術の進歩と現代医療の最前線と課題 | 講義 |
| 5 | 2 | 科学技術の進歩と現代医療の最前線と課題 | 講義 |
| 6 | 2 | 医療を見つめなおす新しい視点 | 講義 |
| 7 | 2 | 保健・医療・福祉の潮流 | 講義 |
| 8 | 2 | 保健・医療・福祉の潮流 | 講義 |

| | |
|----------|---------------------|
| 教科書・参考図書 | 「系統看護学講座 総合医療論」医学書院 |
| 成績評価方法 | 試験100%、講義への積極的参加を含む |
| 履修上の注意点 | 医療を見つめなおす機会とする。 |